

# こぶし だより

働こう障がい者も  
**SSKW**  
働けるんだオレたちも



トレイの選別作業中の佐々木晃さん

## CONTENTS

- ① トピックス.....2P~3P
- ② 特集「後援会活動について」 .....4P~6P
- ③ 追悼・佐々木晃さん .....7P
- ④ アドレス・編集後記 .....8P

No. 336

2010  
2

# トピックス

「ぶ」の会 それぞれの現場から

Topics

県東ライフサポートセンター・真岡

## メール便の仕事を始めます！

県東ライフサポートセンター真岡では、これまで下請けの作業とパンの販売を中心に、日中の活動を行ってきました。すこしずつパンの売り上げも伸びては来ましたが、まだまだ十分な工賃を稼ぐのは難しく…そんな折、クロネコヤマトで有名なヤマト福祉財団様から思わぬお仕事の声がかかりました。

「ヤマト財団ですが、ヤマトのメール便の配達の仕事をしてみませんか？」

ヤマト福祉財団では、全国の障がい者施設に委託してメール便の配達作業を行っているそうです。栃木県でも、いくつかの事業所で実際に配達をしているところもあり、多くの障がいをもつなかまが仕事を行っているそうです。

今回、県東ライフサポートセンター真岡にこのお話をいただいたのも、どうやら現在、真岡市でヤマト財団のメール便配達事業を請け負っている事業所がまだ一つもないということ、真つ先にサポートセンターに声をかけてくれたとのことでした。

そこで、実際にサポートセンターを利用しているなかまと話し合い、実際にやるかどうか、やるとしたら誰がやるのかなどを話し合いました。

その結果、やってみたいという声も上がり、仕事自体にも興味をもつ人が多いため、実際にヤマト財団の方にお話を聞き、具体的な方法や、必要な道具の使い方、作業料などを聞かせてもらいました。機械を使ったり、仕分けをしたり、配達先のルートを作ったり…覚えることはたくさんです。ヤマト財団の方に詳しい説明をもらった時も、みんな真剣に器具の使い方などを学んでいました。

サポートセンターでも自転車を購入し、配達に向けた準備を着々と整え始めています。



県東ライフサポートセンター真岡にて新事業移行説明会を開催

近いうちに、ヤマトのジャケットを着たなかまたちが、真岡市でメール便を一生懸命配達する姿が見られることでしょう。最初は荒町付近から配達を始めていき、慣れてきたら徐々に範囲を広げていこうと考えています。

(松本)

平成22年新春研修会・  
平成21年度全職員研修会(第2回)

新しい年を迎え、こぶしの会のなかま・職員にとって仕事初めとなった一月四日、平成二二年新春研修会がとちぎ福祉プラザにて開催されました。

今回の研修は、四月に開催される、こぶしの会設立三〇年記念公演にご参加いただく、「荒馬座」によるプレ公演と、社会福祉法人はらから福祉会の武田元理事長による講演からなるプログラムで行われました。

また、例年は全職員研修会として実施しておりましたが、今年は仲間やご家族も含め、多くの方にご参加いただいたでの開催となりました。

はじめに「荒馬座」による「獅子舞」を觀賞し、新年の縁起物を楽しみました。迫力のある動きをした獅子たちが、一人ひとりの頭を噛んで会場全体を回り、参加者全員で今年一年の健康を祈願しました。四月一七日の公演が楽しみとの声が多く聞かれました。

次に、武田理事長による講演を聞きました。テーマは「利用者月額工賃七〇、〇〇〇円を目指す社会福祉法人の実践」で、はらから福祉会が、平成二二年度までに月額七〇、〇〇〇円以上の工賃を目指す中で、どのようなことを大切に取り組んでいるのかを学びました。

武田理事長は、目標・目的・方法がしっかりとしていることが大事だと語られておりましたが、根拠を明確にするために「なぜ働か、何を望むのか」と根本的な部分から皆で考え、全員が納得した上で、実践していくという話には、職員のひとりとして、会議の場から日常的な会話も含めて、職員間の対話を重視し、共通認識をもてるようにしていくことが大切だと感じました。

年始いうことで、「元気が出る、刺激になるような研修」をテーマに研修内容を検討しておりましたが、近年とは違い外部講師を招いたことで、楽しみつつも緊張感のある、また、いつもと雰囲気の違いのものになったかと思えます。  
(古谷)

社会福祉法人こぶしの会  
設立30年記念  
「荒馬座」公演



- 日時 平成22年4月17日(土)  
開場:午後0時30分 開演:午後1時30分
- 会場 宇都宮市文化会館大ホール  
ホワイエにてこぶしの会の歴史をパネル展示。  
また、利用者の作品展示やこぶしの会以外の事業所で作られた製品の展示即売も行います。
- 入場料 <全席自由> 前売り券 当日券  
一般 3,000円 3,500円  
小人・障害者 2,000円 2,500円(3歳以下無料)

【お問い合わせ】

社会福祉法人こぶしの会法人設立30年記念「荒馬座」公演実行委員会事務局  
宇都宮市柳田町1401 こぶし作業所内  
TEL:028-662-1911 FAX:028-662-1912

# 「後援会活動」について



1970年初頭、人口35万人の宇都宮市には、重い障がいがある人のための公的な働く施設は1つもありませんでした。そうした中、市立の通園施設「若葉園」を20歳を迎えることで退所せざるを得なくなった2人の児童のお母さんが、「入所施設には入れたくない、家から通える施設が市内にもほしい」と市当局に相談をしていました。同じ時期に、活動を活発化していた全国障害者問題研究会栃木支部という研究団体と2児の母親の連携が生まれ、視察や学習・話し合いが始まりました。1974年8月のことである。そして、同年9月15日、県母子福祉センターに全県から集まった障がい者、家族、施設職員、学生、一般の市民40名が集い、「こぶし共同作業所設立準備会」が発足したのです。この時確認された活動方針で「運動の輪を拡げ、また運営資金をつくりだすために後援会をつくる」ことを決め、同10月6日、70名の参加を得て「こぶし共同作業所後援会」を結成したのです。

この時の目標にしたのが、「1人から多額の資金援助を受けるのではなく、できるだけ多くの市民の協力を得るため、年間会費を1口500円にする」「後援会ニュース(現こぶしだより)を通じて会員とこぶしの日常的なパイプをつくる」。さらには、日曜作業所の設置を決め、後援会が交代でボランティアとして参加し、活動を支えていました。

こうして、2ヶ月後には、会員数206名と急速に発展し、今日に至っています。

1980年4月、国の認可施設として、運営のほとんどが国費で賄われるようになり、宇都宮市、芳賀町、真岡市と活動エリアが広がっても、後援会活動の意義と役割はますます重要になってきています。今回は、こぶしの会に係わる三つの後援会の歴史と現状を報告してもらいました。

## I こぶし作業所後援会

こぶし作業所後援会は、1974年10月6日に、「こぶし共同作業所後援会」として発足いたしました。

“共同?”と思われる方もいらっしゃると思いますが、そうです!こぶし作業所が、まだ法人化される前の、無認可の時代に立ち上がった組織なのです。すなわち、こぶしの会(法人)よりも古い、こぶしの歴史そのものなのです。

当時、無認可で資金ゼロの中出発した「こぶし共同作業所」の専従職員2名の給与と運営費の捻出、また日常の人的な応援と認可運動の中心的な役割を担うなど、こぶしと周りの社会を結ぶさまざまな活動で、物心両面から支え続けてきました。

1980年に、こぶし共同作業所が社会福祉法人格を取得して、「こぶし作業所」として出発した時、名称を現在の「こぶし作業所後援会」としました。

さて、その後援会の活動ですが、会員拡大はもちろんのこと、何と言ってもやはり代表は『チャリティーバザー』です。バザーの歴史も古く、第1回は1978年に宇都宮市の二荒山神社



懐かしき、二荒山神社前でのチャリティーバザー

の境内にて行われ、当時で80万円(こぶしのバザーは1日です。)という驚きの売上を上げています。その後も、2007年の第30回まで毎年行われ、1年休んで(チャリティー映画会実施)今年度31回目を行いました。第27回までは、二荒山神社のご協力のもと、境内を利用しての実施で、ピーク時は最高約200万円の売上を記録したこともありました。要員ボランティアさんも100名を超える、県内でも一番大きなバザーだったかもしれません。こぶしのバザーの大成功を参考に、二荒山神社境内でのほかの団体等のバザーが増えたというエピソードもあるようです。

第28回からは、宇都宮の人通りや町並みの変化により、オリオン通り商店街組合の皆さんのご協力も得て、献血ルーム前やオリオンスクエアで開催しています。バザーの開催には、後援会員(利用者の家族、ボランティア、職員を含む)が実行委員会を作り、企画や実務に当たっています。バザーの準備は、開催日の2~3ヶ月前から始められ、品物提供の依頼、回収、値段付けなどの仕事、さらに当日の要員など多くの人たちの協力を得て実施されています。また、ミニバザーとして問屋町で毎月行われる“びっくり市”にも、出店し続けています。

無認可時代からのさまざまな活動を通し、財政面の支えはもちろんですが、『こぶし』の役割の大切さを地域の人たちや行政にも伝えながら今日まで、障がいをもつ人たちのために奮闘してきました。『こぶし』と聞いて「ああ、聞いたことある。」「こぶしなら。」という人が多いことにも、後援会活動がいかに広がっていたのかが伺えます。後援会活動を通じ、障がいを持つ人々への理解や関心の輪を広め、中には福祉に携わる仕事に就いた人も数多くいます。正に、こぶし作業所後援会は、こぶし作業所やこぶしの会の財産をたくさん生み出している、存在の源と言えるでしょう。

来年度「こぶし作業所」は、宇都宮市茂原へ移転します。新しいスタートに伴い、こぶし作業所後援会も更なる飛躍を目指す活動の展開が必要かもしれません。後援会の歴史と財産が、新こぶし作業所にもきっと活かされることなのでしょう。期待を膨らませると同時に、改めて、こぶし作業所後援会の果たしてきた役割の大きさを感じます。月並みですが、“ありがとうございます”と感謝しきれないほどの想いで一杯です。(金田)

## II けやき作業所等後援会のあゆみとこれから

けやき作業所等後援会の発足は今から17年前にさかのぼります。平成5年に芳賀地区・現在のけやき作業所の建つ場所に芳賀地区に住む障がい者の働く場として、「こぶし作業所芳賀分場」通称けやき作業所が開所しました。それとともにけやき作業所の事業の充実と発展を支え、けやき作業所利用者の地域生活を支える一端を担う目的で「けやき作業所等後援会」が誕生しました。地域の方々と障がいを持つ利用者との架け橋となり、骨董市の参加やさまざまなチャリティ企画を催し、また会員の数も徐々に増やしてきました。そうした会員の方々の努力が実を結び、平成10年にけやき作業所が正式に認可されるという大きな成果をあげることができました。その後も稲毛田に第2けやき作業所が開所、グループホーム「すずらん」「けやきハイツ」「第2けやきホーム」の開所など事業を発展させることができました。

今年度は大きな動きが2つありました。

ひとつは、芳賀地区にバリアフリーケアホームを建設するという大きな事業を控え、けやき作業所等後援会としても、その資金集めに協力するため、道の駅友遊はがで毎月第4日曜に開かれる骨董市への参加を復活させたことです。昨年度は周到な準備のもと、映画『ふるさとをください』上映イベントを成功させることが出来ましたが、今年度は骨董市への毎回参加で、



市貝町町民祭にて手作りのお赤飯などを販売!

これに匹敵する収益を目指しています。また、この活動の中で得た副産物は無形の収穫となっています。後援会、家族会の方々の尽力とともに、当事者である『なかま』の皆さんの積極的な参加があったこと。これがまた後援会活動の大きな推進力にもなっているということ。骨董市での活動は、施される福祉ではなく、当事者自身が役割をもち、推進する福祉の実践場になっていると感じています。

もう1つは、残念なことですが、後援会会員拡大運動を本格化させる最中の、福田後援会会長の逝去です。その存在と後援会の失ったものはあまりにも大きく、しばらくの停滞を余儀なくさせましたが、残されたものは前進あるのみ。これも日々前向きに生活している『なかま』の皆さんから学んだところですが、新後援会長も決定し、後援会活動も漸く平常心にもどったところとも言えると思います。

ほかにも、法人内の他事業所後援会との交流の場を設け、率直な意見交換を行うなど、今年度の新たな取り組みが芽生えてきています。(星野、高橋)

### Ⅲ セルフ・みらい後援会「みらいの会」

朝8時、弁当班のなかまが出勤し白衣に身を包みます。きりっと帽子とマスクも付けて、さぁ、お弁当づくりです。9時、東コースの送迎車が到着し、「おはようございます！」の元気な声が聞こえてきました。下請け班では箱折りの作業、リサイクル班はアルミ缶の回収作業、「セルフ・みらい」の一日の始まりです。

8年前の平成14年4月、通所の知的障がい者の授産施設「セルフ・みらい」が開所しました。その2年前、養護学校(現在の特別支援学校)に通う子を持つお母さんたちは、卒業後、自宅から通って働ける作業所をこの真岡に作りたいたいと思い、地道に準備を進めてきました。それが、セルフ・みらい後援会「みらいの会」の前身です。約2年間、地元の有識者や知人、友人など趣旨に賛同してくださる方に運動の輪を広げ、「ひろがれコンサート」「絵画展」「モンゴルの演奏と食事の夕べ」など、大きなイベントや小さなフリーマーケットの積み重ねで自己資金をつくり、開所にこぎつけたのです。そして、作業所をつくるために結集した力は、そのまま「セルフ・みらい」を応援する後援会「みらいの会」に発展しました。開所して間もなく9年目を迎えますが、支える活動は、15回にも及ぶ「みらいフェスタ」の開催や各地のイベントへの参加、また「ひろがれコンサートpart2」「ふるさとをください上映会」、実行委員会を構成した形での「デューク・エイセスコンサート」の開催など、力を抜くことなく続けられてきました。このように活動を羅列すると、さぞ大変だろう…と思われるかもしれませんが、「みらいの会」の集うところいつも笑いどきと活気にあふれています。大変でもそれを感じさせない不思議なパワーがあるのです。



みらいフェスタでフリマ♪

さて、今後の後援会ですが、さらに、みらいの会会員の拡大にその不思議なパワーを注ぎ、私たち職員の課題である授産事業の販路拡大、作業開拓など、後援会の皆さまの力をお借りできたらと思います。なかま、職員の力だけでは、やはり力不足な部分が多々あります。多方面でご活躍の方々のご支援をぜひお願いしたいと思います。

みらいの会は今後とも地域のイベントに積極的に参加し、セルフ・みらい開催の“みらいフェスタ”を充実したものにしていきたいと思っています。ぜひ、みらいの会の名前を見かけたときはよろしくお願いたします。(矢口)

みらいの会は今後とも地域のイベントに積極的に参加し、セルフ・みらい開催の“みらいフェスタ”を充実したものにしていきたいと思っています。ぜひ、みらいの会の名前を見かけたときはよろしくお願いたします。(矢口)

## 追悼 佐々木晃さん

昭和六二年、宇大附属養護学校高等部を卒業してから、ずっとこぶしのなかまとして働き、平成一一年からは、ケアホーム「こぶしのときわ荘」で暮らしていた佐々木晃さんが、昨年暮れ、一月二四日、病気のため亡くなりました。半年ほど前から体調を崩し、自宅で療養を続け、元気になって、またこぶしへ行く、と頑張っていたのに…。

こぶしでは、月に二回、なかまと職員とで今市の自宅に伺い、顔を見たり声をかけたりしてきました。晃さんを力づけるはずが、病気に負けず頑張る姿にいつも逆に励まされてきました。本当に残念です。



一月二六日の告別式には、なかま、ご家族、職員四四名が参列し、最後のお別れをしました。真面目で几帳面でやさしくて、ちよつとはにかみ屋だった晃さん。どうぞ安らかに眠りください。先日、お母様よりお手紙とお写真を寄せていただきましたので、掲載させていただきます。

御見舞並びに葬儀に際し

御参加下さいました皆様に

深く感謝申し上げます。

故、佐々木晃は昭和四十一年三月七日今の世に生を受け以来四十四年の生涯を一生懸命に前向きに努力し成長し天に召されました。我が子の生き方を通して障害を持ちながらも懸命に生き抜いていった我が子、晃を愛しい気持ちと同時に心より誇りに思っています。

こぶし作業所には養護学校高等部を卒業しそれ以来ずっとこぶしで働いて来ました。たくさんの方の指導員の先生との出会いや、そして別れ仲間の人達との別れもあり、余り口に出さない晃でしたが心の揺れを見せた事も有りませんでした。その事に耐え前向きに進出出来たのは、こぶしの所長様、始め職員の皆さまの温かいおこころだったと思います。また保護者



の方達とのふれあいを通してまっすぐに人を信頼し、愛して私達身内にも、懸命に人に尽くす優しさと頑張りや亡くなる数日迄、やり通して行きました。今は頑張ったね!! そして有難う安らかに天に旅立って下さいと、祈るばかりです。私事ですが亡き佐々木晃にかわりお関わり下さった皆様の御厚情に感謝申し上げますと共に、亡き晃を御心の片隅においていただき時折思い出していただければ無上の幸せと存じます。

末筆ながら御礼を申し上げ御挨拶とさせていただきます。

平成二十二年一月二十四日

母 佐々木優子  
次男 佐々木信之  
親族一同

社会福祉法人  
こぶしの会

- こぶし作業所 ☎321-0126 栃木県宇都宮市茂原町837-1  
 ・就労移行支援事業  
 ・就労継続支援B型事業  
 ・生活介護事業  
 ・自立訓練(生活訓練)  
 TEL 028 (653) 1020 FAX 028 (688) 1121  
 E-mail kobushi@chive.ocn.ne.jp
  - 障がい者生活支援センター こぶし ☎321-0902 栃木県宇都宮市柳田町1401  
 ・在宅障害(児)者の相談・支援  
 TEL 028 (613) 5703 FAX 028 (666) 6128  
 E-mail kobushi-sw@tenor.ocn.ne.jp
  - こぶしのときわ荘 ☎321-0139 栃木県宇都宮市若松原2-6-8  
 ・知的障害者ケアホーム  
 TEL 028 (653) 1477
  - く る み ☎321-0912 栃木県宇都宮市石井町字内野2867-3  
 ・知的障害者ケアホーム  
 TEL 028 (664) 0414
  - けやき作業所 ☎321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井2244  
 ・就労継続支援B型事業  
 ・生活介護事業  
 ・日中一時支援事業  
 TEL 028 (687) 1040 FAX 028 (677) 5789  
 E-mail keyaki@carrot.ocn.ne.jp
  - 第2けやき作業所 ☎321-3303 栃木県芳賀郡芳賀町稲毛田1532  
 ・就労移行支援事業  
 ・就労継続支援B型事業  
 TEL 028 (677) 0495 FAX 028 (687) 4818  
 E-mail inageda@fancy.ocn.ne.jp
  - 県東ライフサポートセンター ☎321-3303 栃木県芳賀郡芳賀町稲毛田1532  
 「ほっとCHA」  
 ・地域活動支援センター  
 TEL 028 (687) 0311
  - 県東ライフサポートセンター「真岡」 ☎321-4305 栃木県真岡市荒町3-9-5  
 ・就労移行支援事業  
 ・就労継続支援B型事業  
 TEL 0285 (83) 2567 FAX 0285 (83) 2567
  - ホームひまわり ☎321-3321 栃木県芳賀郡芳賀町大字下高根沢字下原3932-79  
 ・知的障害者ケアホーム  
 TEL 028 (666) 4253
  - けやきハイツ ☎321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井178  
 ・知的障害者ケアホーム  
 TEL 028 (677) 2876
  - 第2けやきホーム ☎321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井1204-4  
 ・精神障害者グループホーム  
 TEL 028 (677) 0776
  - コーポ 峰 ☎321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井775-2
  - セルプ・みらい ☎321-4363 栃木県真岡市亀山1043-23  
 ・就労移行支援事業  
 ・就労継続支援B型事業  
 TEL 0285 (81) 1155 FAX 0285 (81) 1177  
 E-mail selp-mirai@carrot.ocn.ne.jp
  - ぼてっ と ☎321-4364 栃木県真岡市長田1-12-5  
 ・知的障害者グループホーム
  - 芳賀地区障害児者相談支援センター ☎321-4305 栃木県真岡市荒町110-1 市総合福祉保健センター内  
 ・在宅障害(児)者の相談・支援  
 TEL 0285 (80) 7765 FAX 0285 (80) 7765
  - 県東圏域障害者就業・生活支援センター「チャレンジセンター」 ☎321-4305 栃木県真岡市荒町111-1  
 ・障害者の就業相談・支援  
 TEL 0285 (85) 8451 FAX 0285 (85) 8452
- 
- 法人本部 ☎321-0902 栃木県宇都宮市柳田町1401  
 TEL 028 (613) 3707 FAX 028 (666) 6128  
 E-mail sphb8h99@jewel.ocn.ne.jp

本会の定款、事業計画、財務諸表等を閲覧ご希望の方は、各事業所までお申し出ください(閲覧時間 8:30 ~ 17:00)

編集後記

時間が経つのは早いもので、もう間もなく今年度も終わろうとしています。今年度は政権の交代という大きな動きが起こり、これまで全国で声高に叫ばれてきた障害者自立支援法の改正に向けて、大きく前進したようにも思われます。

来年度、こぶしの会では、すべての事業所が事業移行を行い、新たな枠の中で、よりなかまたちへの支援を強化しより良いものにしていくための動きがとられています。

こぶしだよりでも事業移行の動きや、各事業所・法人の動き、なかまたちの様子などをさまざまな面から皆様にお伝えしていこうと考えています。今後ともこぶしだよりをよろしく願います。(松本)

編集委員

松本 裕生 河原 とき子 菊地 豊 星野 早苗 稲村 淳彦

発行所 郵便番号二五〇〇七三

東京都世田谷区砧六―二六―二一  
 特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価五〇円